

## 2023年度後期における「学生による授業評価アンケート」に対するコメント

2023年度後期における「学生による授業評価アンケート」の実施に際しましては、ご協力いただいた学生の皆様並びに非常勤講師の皆様、専任教員の皆様に感謝申し上げます。

以下に、2023年度後期「学生による授業評価アンケート」の全体の結果を概観していくことにいたします。まず回答者数ですが、全科目における延べ受講者数10375人に対しまして総回答者数は4954人であり、回答率は約48%となりました。直近の2023年度前期の回答率が約57%でしたので、約10%ダウンとなってしまいました。昨年度の回答率を見ますと、2022年度後期における回答率は約49%、前期は約56%でした。したがって、この2年間における回答率は、40%台後半から50%台後半の範囲内を推移しているという状態です。このように、本アンケートの実施方法をユニバーサルパスポートを用いての方式に変更して以来、回答率が上がらない状況が続いております。FD・SD委員会におきましては、こうした結果を重く受け止め、本アンケートの回答率の向上を重要課題と位置付け、教員の皆様に対しましては教授会やFD・SD委員を通じての協力依頼を行ってまいりました。また、学生を対象とした啓発ポスターを作成し、回答を呼びかけてまいりました。しかしながら、今期におきましても回答率を向上させることはできませんでした。つきましては、2024年度におきましても、本アンケートの回答率を上げることを重要課題として位置付け、回答率向上に向けてのさらなる工夫を行って参りますので、どうぞご理解いただきまして、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

さて、上記の回答率から考えますと結果の解釈には慎重であるべきことを踏まえまして、以下に今年度後期における全体的な特徴を述べていくことにします。まずA領域の「あなた自身について」ですが、「①この授業への出席割合」「②授業に積極的に参加した」「④授業を受けて関連領域をさらに深く勉強したくなった」「⑥この授業全般において満足である」の4項目においては、平均が5点満点中4点を越えていました。「⑤シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだ」の項目に関してのみ平均は3点台でしたが、3.93という数値から考えると、ほぼ4点に近いといえます。こうした結果に基づきますと、学生の皆さんは「授業の出席率は非常に高く、尚且つ、授業には積極的に参加し、そして、授業で学修した領域をさらに深く学びたいと思うようになり、シラバスに掲げられている到達目標を達成できそうだと感じている」、このように自身の学修状況を認識していることがうかがえます。そして、学修状況をこのように認識しているため、授業全般に対する満足度も高くなっているのだと思われます。本アンケート結果からは、このように推測することが可能かと思われます。

次に、B領域の「授業や教員の教え方について」ですが、「⑦学生が集中しやすい授業だった」「⑨学生の理解度を確認しながら授業が行われていた」「⑩授業の学習目標を学生に伝えていた」の3項目においては、平均が5点満点中4点を越えておりました。また、「⑧授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった」においては、若干平均点は落ちるものの数値としては3.87でした。こうした結果から考えますと、学生の皆さんは教員の授業運営に対する認識として、「教員は授業時に学習目標を伝え、個々の受講生の理解度に気を配りながら、また授業に集中できるように教室をコントロールし、質問にもある程度応じていた」というように認識していたことが推測されます。

A領域、B領域の結果をまとめますと「授業中において、受講生は積極的に集中して取り組み、到達目標を達成できそうな程度に学修できており、さらに学んでいきたいと思っている」、そして「教員は受講生が学習しやすい環境を整えている」、本学の学生は授業に対してこのような認識を持っていることが推測されます。そして、授業評価におけるこうした傾向が例年通りであることから考えますと、学年や年度にかかわらず、本学における教育活動の大きな特徴の1つといえるものと思います。2023年度には各資格における国家試験の合格率がさらに向上しており、また、全学的な就職率の高さを開学以来維持しているのは、授業を中心とした学修活動の充実が大きな要因になっているものと思われます。

しかし、本学の大きな課題の1つであります受講生の予習や復習といった授業外学習時間につきましては、微増傾向にあるものの、まだ十分とはいえない状態だといえます。学修者本位の教育が展開されていくためには、受講生が授業時以外でも主体的に積極的に学習していく必要があります。したがって、授業時以外でも学生が主体的に学習していくことができるための授業作りと、そのための学生支援の在り方を検討していくことが、本学における授業の質をあげていくことであり、このことが本学に求められている現在の最重要課題といえます。2024年度におきましても、引き続き一人ひとりの学生さんとの丁寧な対話を続けていくことによって、この課題の解決をめざしていきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

FD・SD委員会委員長 須河内 貢

# 授業評価アンケート

2023年度 後期

授業コード：

授業科目名： 全体

受講者数： 10375名

担当教員名：

回答者数： 4954名

学科	人間科学部 社会福祉学科	人間科学部 医療福祉学科 介護福祉専攻	人間科学部 医療福祉学科 視能訓練専攻	人間科学部 子ども教育学科	人間科学部 健康心理学科	人間科学部 医療心理学科 臨床発達心理専攻	人間科学部 医療心理学科 言語聴覚専攻	人間科学部 理学療法学科	心理学部 心理学科
	895	23	243	693	12	19	24	85	1356

学科	保健医療学部 理学療法学科	保健医療学部 作業療法学科	保健医療学部 言語聴覚学科	学年	1年次	2年次	3年次	4年次
	866	363	375		2489	1355	818	292

設問No	設問文	1	2	3	4	5	*全平均
		そう思う	やや そう思う	どちらでも ない	あまりそう 思わない	そう 思わない	

## A.あなた自身について

①	この授業への出席割合は 1.毎回 2.ほとんど 3.3分の2ぐらい 4.半分ぐらい 5.半分未満	2383	1871	551	32	79	4.31
②	授業に積極的に参加した	2231	1913	547	139	65	4.25
③	この授業1回あたりで予習や復習に費やした時間は 1.2時間以上 2.1時間以上~2時間未満 3.30分以上~1時間未満 4.30分未満 5.全くしていない	248	537	1387	1511	1224	2.40
④	授業を受けて、関連領域をさらに深く勉強したくなった	1645	2038	917	178	122	4.00
⑤	シラバスで掲げられている到達目標を達成できそう	1428	2080	1114	177	105	3.93
⑥	この授業全般についてあなたは 1.満足である 2.やや満足である 3.どちらでもない 4.やや不満である 5.不満である	2051	1756	855	146	90	4.13

## B.授業や教員の教え方について

⑦	学生が集中しやすい授業だった	2290	1643	725	164	82	4.20
⑧	授業は質問や意見などを発言しやすい様子であった	1753	1469	1145	358	174	3.87
⑨	学生の理解度を確認しながら授業が行われていた	1915	1686	920	245	135	4.02
⑩	授業の学習目標を学生に伝えていた	2222	1685	797	109	86	4.19

